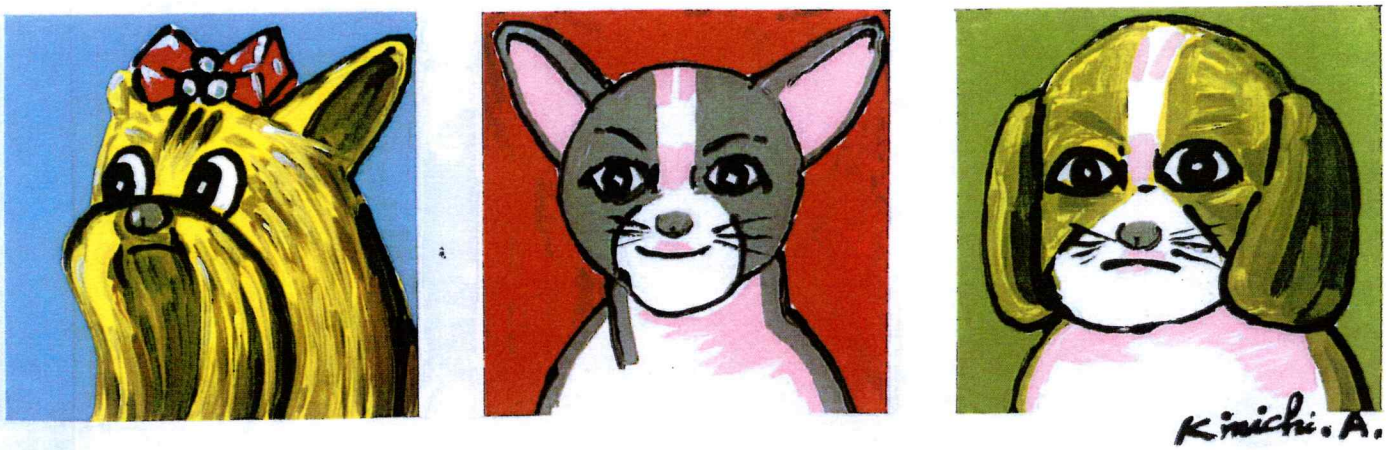
松田ペット看板　青柳謹一　画



犬猫美容
TEL27-4811
松田ペット

股旅あい好会　ロゴマーク　青柳謹一　画

（ボランティア演芸団体）



股旅あい好会®



二代目看板絵師　青柳謹一さんのご紹介



青柳謹一（写真左）

1942 年、松田ペット社長と同じ三島町（現在の長岡市三島地域）の生まれ。上京後印刷技師として勤める傍ら、ロゴマークやイメージキャラクター、キャッチコピーなどのデザイン公募への応募を長年続けてきた。代表作はさいたま市章、緑の募金シンボルマークなど。松田ペット看板初代絵師の近藤忠男氏が高齢であることから、後継者として声がかかった。実は二代目継承以前から「松田ペット」のフォントデザインは青柳氏によるものである。











富士山を背景に山梨県のイニシャル「Y」を人にイメージし、人と産業の交流拠点と地域の人々が集い、観光客が訪れるセンターを表現しました。

～ 近藤忠男さん、ありがとう！ ～

(株)松田ペットの創業当初からこれまでの５２年間にわたり、小千谷市で「近藤看板店」を営む近藤忠男さんに看板を描いて頂きました。近藤さんは御年９４歳を迎え、現在は引退されております。

近藤さんの描いた看板の歴史はそのまま松田ペットの歴史とも言える、とても大切なものです。

松田社長をはじめ、スタッフ一同、改めて感謝の言葉を申し上げます。

今後の看板制作につきましては、群馬県で画家・デザイナーをされております青柳謹一さんへ一任される事となりました。

青柳さんはさいたま市のロゴマークなど、現在まで２０点余りのマークを制作されている方です。

この風景画は青柳さんの作品です。

今後とも松田ペット及び、その看板たちを宜しくお願い致します。

(株)松田ペット

2024年年末
常連さんなどにお伝えしていた
絵師交代のお知らせ文



人 青柳謹一（あおやぎきんいち）さん

「まさか選ばれるとは思わなかった。自分の作品が多くの人の目に触れるのが何よりうれしい」。

緑の募金のデザインは、緑と地球、人間の連帯をイメージ。「利己主義に走りがちな時代だからこそ、共有すべき自然を大切にする」気持ちを持ってほしい」との思いを込めた。

子供のころから絵を描くのが好き。ジャンルは問わず、油絵や水彩画なども描く。いま一番気に入っているのが「線を追求するマークを描く世界だ。マークはアイデアさえ浮かべば、描く時間はそれほどかからず、作品に対する評価もすぐに分かるのが利点。「単純な線を巧みに描き、だれからも親しまれるデザインを」と胸に心がける。

「青柳さんが、初めて自治体の募集するシンボルマークに応募したのは十年前。地元・川越市のクリーン運動のマークで入賞、清掃車のデザインにも使われた。

以来、シンボルマークの応募に弾み付きとなった。雑誌の公募欄を頼りに、自信作を送り続ける。採用された「デザインも少なくない。「とにかく楽しいから描くだけ」と、休日はもっぱら部屋にこもり、絵に没頭する。夢は「いままで描いた油絵や水彩画などで、自分の画集を出すこと」。

新潟県出身。会社員。妻と娘２人とともに埼玉県川越市に在住。54歳。「努力と忍耐」が信条。

「緑の募金」のシンボルマークを作製



毎月第三日曜日は「家庭の日」

「家庭の日」のキャッチフレーズとシンボルマーク決定！

県と青少年育成埼玉県民会議※では、毎月第三日曜日を「家庭の日」と定め、家族みんなで家庭を振り返り、明るく楽しい家庭づくりを考える日としています。

この「家庭の日」をより多くの方に知っていただくため、昨年のさいたま彩の国だより八月号などで、分かりやすく親しみやすいキャッチフレーズとシンボルマークを募集しました。応募作品の中から選考の結果、次の通り決定しました。

●キャッチフレーズ

「食卓に笑顔が集う　家庭の日」

（茨城県　国島洋介さん作）

●シンボルマーク



（川越市　青柳謹一さん作）

家庭（HOME）の頭文字「H」をもとに、明るくぬくもりと親しみのある家庭の日を表

家庭は、くつろぎ、生きる力をはぐくみ、文化を伝える役割を持つ、子どもの成長にとってかけがえのない場です。

しかし忙しい毎日の中、家族が温かくふれあう機会が薄れがちです。

また、少年事件の凶悪・粗暴化といった、青少年の問題が深刻化する背景には、家族のふれあいの希薄化など、家庭が本来持っている機能の低下が指摘されています。

そこで、毎月第三日曜日の「家庭の日」には、家族団らんの場を設けたり、家族一緒に地域の行事に参加するなど、心に残る「家庭の日」を過ごしてみてはいかがでしょうか。



※青少年育成埼玉県民会議
青少年育成関係団体や企業・地域の方々によって組織され、県や市町村と連携協力しながら青少年育成県民運動を推進する母体

県青少年課
TEL 048・830・2912



「川越城築城五百五十年記念ロゴマーク」決定



十月二十五日発行の広報川越で募集した、「川越城築城五百五十年記念ロゴマーク」には、五十二人の皆さんから七十二点の力作が寄せられました。その中から審査の結果、青柳謹一さん（64歳・並木西町）の作品が選ばれました。

また、大嵩雅之さん（37歳・今成二丁目）、秋山修志さん（36歳・六軒町二丁目）、井上実さん（44歳・仙波町一丁目）、青柳謹一さんの作品が、審査員特別賞に選ばれました。

このロゴマークは、今後、「川越城築城五百五十年記念イベント」などで使用していきます。たくさんのご応募、ありがとうございました。

問い合わせ…観光課観光企画担当・内線2732